

はちおうじ物語 其の五  
八王子宿と千人同心



千人同心はどのような文化を育んだ？

現在の中心市街地の基盤となった、江戸時代の八王子十五宿。その西方には、甲州口の守りなどのために「千人同心」が配置されていました。千人同心は、軍役を務め、治安維持や日光火の番などで活躍した一方で、数々の文化的功績も残しました。八王子十五宿の始まりから、千人同心の活躍と文化的な功績を追ってみましょう。

千人同心の連絡網「番組合之縮図」



『八王子名勝志』にみる甲州道中と八王子宿



千人頭の家伝の兜(市指定有形文化財(工芸品))

徳川氏の代官頭大久保長安は、北条氏照が八王子城下に築いていた城下町、横山・八日市・八幡の三宿と領民を現在の中心市街地に移して、新たに八王子宿として整備しました。

八王子宿の西方(現千人町)には、武田氏の旧臣などからなる千人同心が置かれました。千人同心は、徳川家康の江戸入府にともない、当初は甲州との国境警備や八王子城落城後の地域の治安回復などにあたりましたが、その後、日光東照宮とその周辺の火の番をする日光勤番を公務として幕末まで担いました。

常に国内外の最新の知識と文化に通じていた千人同心からは、地理学や蘭学に優れた文化人を多く輩出しました。また、横浜港の開港前に、国事に関心を抱いていた千人同心が海防にかかわる意見書を徳川幕府に提出しました。開港後は、全国各地への千人同心の派遣が開始され、派遣地での情報収集が行われました。幕府の解体後、千人同心の多くは帰農して、八王子周辺地域に根付いていきました。

発展を続ける現在の八王子の学問や文化には、文化的な側面も持ち合わせていた千人同心の気風が受け継がれているのかもしれない。

# 八王子宿のはじまり

天正18年(1590年)、北条氏照の居城八王子城は、豊臣秀吉軍の上杉景勝・前田利家の軍勢に攻められ、ついに落城しました。その後、現在の八王子市街地である横山の地に新しいまちづくりが始められました。それは中世から近世への、新しい時代の幕開けでもありました。

大久保長安らの指揮のもと、浅川の河川が管理され、甲州道中が整備されました。甲州道中の宿として東から横山・八日市・八幡の3宿が元八王子から移されました。その後、宿は15に増え、さらには寺院や神社も置かれ、「八王子十五宿」が形成されていきました。八王子宿の西方には、江戸の西の防衛拠点として千人同心が配置されました。



文政5年(1822年)ごろに描かれた八王子宿全景  
(『新編武蔵風土記稿』)

# 八王子宿のにぎわい



時の鐘(市指定有形文化財(工芸品))

横山宿と八日市宿には六斎市(月)に6回行われる市ろくさいいちが開かれ、八王子宿は、市を中心とした地域経済の中心都市として発展しました。市の様子は『桑都日記』にも「桑都朝市」として紹介されています。また、甲州道中を通して高尾山に参詣し、小仏峠を越えて富士山に向かった富士講の道者や庶民の参詣の旅人にも利用されました。徳利とくりの看板で有名な「かめや」などの旅籠はたごもこうした中で誕生しました。元禄時代になると、経済的にも文化的にも充実し、宿場の人々に時刻を知らせるための時の鐘がつけられました。



旅籠の「かめや」(『八王子名勝志』)



『桑都日記稿本』に描かれた「桑都朝市」  
(都指定有形文化財(古文書))

## 八王子宿を整備した 大久保長安

小門宿(現小門町)には、代官頭大久保長安の陣屋が設けられ、関東十八代官を指揮して、八王子だけでなく関東幕領の統治を行いました。陣屋には牢屋もあり、警察の役割も果たしました。産千代稻荷神社がその跡地といわれています。また、長安は交通網を整備し、一里塚を設けたともいわれています。甲州道中の一里塚のうち、新町の竹の花公園に竹の鼻一里塚跡が残っています。そのほか、治水事業も手掛け、度々氾濫して大きな被害を出していた浅川には堤防が築かれました。この堤防は、千人町・日吉町から新町の辺りまで続く大規模なものでした。大久保長安の官途「石見守」にちなんで「石見土手」としてその一部が残されています。



大久保長安像(新潟県佐渡市大安寺所蔵)



産千代稻荷神社(大久保石見守長安陣屋跡<市指定史跡>)

## 千人同心たちの心の支え 武田家のお姫様 松姫

松姫は、永禄4年(1561年)に甲斐国の古府中、躑躅ヶ崎<sup>つづしがさき</sup>の屋敷で生まれました。父は、戦国時代の武将、武田信玄です。天正元年(1573年)に武田信玄が亡くなると、織田信長による武田家の領地への進攻がはじまりました。武田家が滅亡する天正10年(1582年)、兄仁科盛信<sup>にしなもりのおぶ</sup>の3歳になる娘小督<sup>こくわ</sup>を連れて高遠城を出発し、八王子まで逃れてきました。この逃避行の際に、心源院(現下恩方町)で尼となり、8年間の修行を積み、天正18年(1590年)、御所水(現台町)に移り住みました。元和2年(1616年)に亡くなるまで、尼として生活を送りました。墓地は没後132年目にあたる延享5年(1748年)に千人頭や同心たちが玉垣を寄進して現在のような姿になりました。松姫は没後も千人同心たちの心の支えとして生き続けました。



木造松姫坐像(市指定有形文化財<彫刻>)

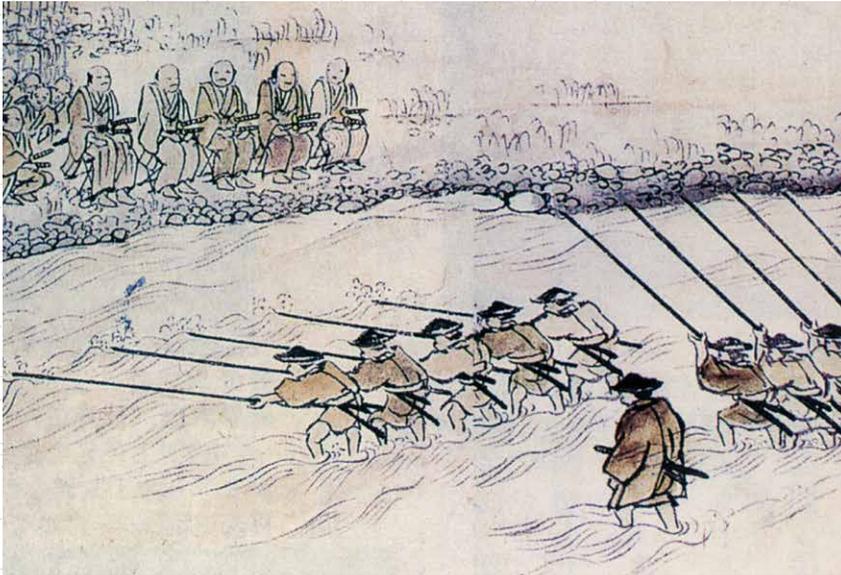


松姫尼公墓(市指定史跡)

## 千人同心とは

千人同心を率いた千人頭の前身は武田家家臣の小人頭です。武田氏の滅亡後、徳川家臣団に組み込まれました。家康が関東に入国し、新たな宿の建設が始まると、元八王子に居住していた小人頭と配下の小人は、現在の千人町に移住しました。八王子宿の整備にあたった代官頭の大久保長安は警備強化のため、小人を千人体制とし、ここに千人同心が成立しました。

彼らは八王子とその周辺に居住し、通常は農耕を営み有事に備えました。徳川幕府が安定すると、日光東照宮を火災から守る火の番の役割や蝦夷地の防衛と開拓を担い、以後幕府崩壊までその公務を全うしました。



「長槍水打」の図(『桑都日記稿本』、都指定有形文化財<古文書>)



千人頭の具足(市指定有形文化財<工芸品>)

## 村々とのつながり

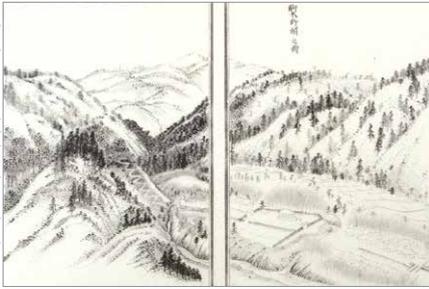
八王子宿やその周辺の村々に点在する千人同心たちは、「番組合之縮図」をもとに、廻状<sup>かいじょう</sup>の伝達などで連絡を取り合っていたようです。この「番組合之縮図」は、現在の市域のもととなる10の市町村の前身である近世の村々が、千人同心を通して線(連絡網)でつながっています。現在の市域は、千人同心の連絡網からも、昔から一つの地域圏であったことがわかります。



番組合之縮図(嘉永7年<1854年>)

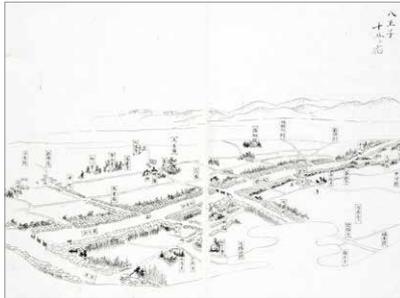
# 千人同心と学問

## 新編武蔵風土記稿



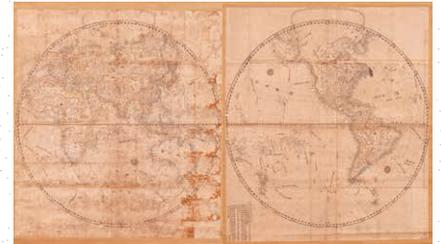
文化6年(1809年)千人頭原半左衛門は、幕府から地誌搜索の命を受けて、<sup>うえだもろし</sup>植田孟縉・<sup>しおのてきさい</sup>塩野適斎などの組頭とともに、周辺村々を調査し編集しました。

## 武蔵名勝図会



千人同心組頭の植田孟縉が『新編武蔵風土記稿』での地誌搜索調査と併行して著しました。高尾山などの名勝地が紹介されています。

## 両半球世界図



千人同心(志村組)組頭の<sup>まつもとときぞう</sup>松本斗機蔵が所有していた世界図。「新訂萬国全図」の写です。斗機蔵の海外への強い関心がうかがえます。

# 千人同心と芸術

## 秋山佐蔵の漢詩



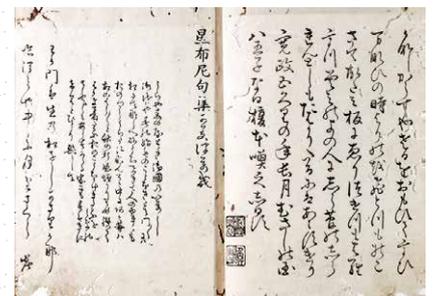
千人同心で蘭方医の秋山佐蔵が、関心を持った出来事などを漢詩で詠んだもの。漢詩人の川本衡山の詩会で披露したと思われる作品もあります。

## 日光山志の挿絵



植田孟縉著『日光山志』に、塩野適斎の義弟で千人同心の河西愛貴が描いた「肉蓯蓉」(生薬の一種)という挿絵が載っています。河西はこのほかにも『新編武蔵風土記稿』や『桑都日記』の挿絵も描いています。

## 星布尼句集



女性俳人の松原庵<sup>せいふ</sup>星布は、千人同心の娘であった継母の影響で俳諧を始めたといわれ、文化11年(1814年)に83歳でこの世を去るまで松原庵の宗匠として句合を主催するとともに、句集を刊行しました。

# 主な構成文化財

## ①大久保石見守長安陣屋跡



市史

〔小門町〕

大久保長安は、八王子城落城後に八王子宿の整備に関わり、現在の小門町から上野町に陣屋を置いて、関東十八代官の頭として関東幕領の統治を行いました。



## ②石見土手



市史

〔千人町二丁目〕

大久保長安が浅川の治水のために現在の並木町から元本郷町にかけて築いた町囲いの堤防です。長安の官途名「石見守」から「石見土手」と呼ばれています。現在は宗格院本堂の北側境内に、石積みを残しています。

## ③宗格院



〔千人町二丁目〕

武田家臣山本土佐忠玄の子、价州良天が文禄2年(1593年)に開いた寺院です。千人頭として八王子に移り住んだ父親の供養のために建てられました。千人同心組頭の松本斗機蔵墓(都指定旧跡)があります。現在は、「八王子八福神めぐり」の一つになっています。

## ④追分道標



〔追分町〕

文化8年(1811年)、江戸の足袋屋清八が、高尾山に銅製五重塔を奉納した記念に、江戸から高尾までの甲州道中の新宿・八王子・高尾山麓の3か所に立てた道標の一つです。甲州街道と陣馬街道の分岐点に建てられています。

## ⑤新町竹の鼻一里塚跡



市史

〔新町〕

八王子宿の東の入口に位置し、江戸から12里にあたるこの地に一里塚が建てられました。現在は付近で鍵の手に曲がる道筋が、昔の面影をわずかに残しています。

## ⑥小谷田子寅の碑



市史

〔下恩方町〕

小谷田子寅は千人同心で、特に医学に励み、薬を乞うもの、診断を求めるものがあとをたたく、民衆に慕われたといわれています。子寅の善徳を称え、同じ千人同心である塩野適斎が撰文し、植田孟縉が揮毫・刻字した貴重な碑です。

市有：市指定有形文化財

市史：市指定史跡



### ⑦時の鐘



市有 工芸品

〔上野町〕

この鐘は、元禄12年(1699年)八日市名主新野与五右衛門を大旦那として、千人頭、千人同心をはじめ、近郷村々の協力により鑄造されたものです。約170年の間、八王子十五宿の人々に時を告げてきました。

### ⑧千人頭の具足



市有 工芸品

八王子千人同心の組頭を務めていた旧家に伝来したもので、江戸時代中期のものだと推定されています。現在は八王子市郷土資料館に収蔵されています。

### ⑨旧甲州街道



〔東浅川町〕

東浅川町には、旧甲州街道に沿って千人同心家などの黒い板塀が残り、江戸時代の甲州道中の面影があります。

### ⑩松姫尼公墓



市史

〔台町三丁目〕

信松院にある松姫の墓所は、松姫の死後132年目にあたる延享5年(1748年)に千人頭たちが玉垣を寄進して現在のような姿になりました。

### ⑪八王子千人同心屋敷跡記念碑



〔追分町〕

甲州街道の追分町交差点を陣馬街道に入っすぐのところにあります。この辺りから甲州街道に沿って西の方に千人頭や同心の屋敷が建ち並んでいました。現在、この地に屋敷は残っていませんが、江戸東京たてもの園(小金井市)に「八王子千人同心組頭の家」が移築復元されています。

### ⑫市守神社



市史

〔横山町〕

天正18年(1590年)に、八王子開府の功労者である長田作左衛門によって、市の商人の守護神として祀られたのが始まりです。江戸時代中期には、大鳥神社も合祀され、「お西さま」「西の市」と呼ばれる大鳥祭が現在も行われています。

# 文化財の保存・活用事例

## 長安祭

大久保長安が、この地に陣屋を構え、稲荷社を創建したことに由来し、毎年4月に、産千代稲荷神社にて大久保長安の慰霊祭となる「長安祭」が開催されています。このお祭りには、大久保長安研究や「はちおうじ大久保長安の伝説の地に行く」マップ(作成はとんとんむかしの会)を公開している大久保長安の会が協力しています。



## 北海道白糠町小学生交流事業

北海道<sup>しらぬかちょう</sup>白糠町は、江戸時代に千人同心が警備と開拓のために入植したゆかりの地です。白糠町と八王子市の小学生が、それぞれのまちの歴史や文化を学ぶとともに隔年でお互いの地を訪問し、様々な体験活動を行っています。

平成11年(1999年)に白糠町の小学生が八王子市を訪問したことで交流が始まり、令和元年度(2019年度)で21回目となりました。

(右写真：蝦夷地開拓を行った千人頭原胤敦のお墓参りの様子)

